



60周年記念事業

みんなでつくる 日野の宝マップ ～平山中地区～

日野に住むみんなから教えてもらった「日野の宝」。
あなたはどのくらい知っていましたか？
自分の住む地区を改めて見渡すと、他にはない面白いものが転がっているかもしれません。

①～⑩については参加メンバーが記事で紹介しています。
裏面を見てチェックしよう！

【四面廂建物跡】

平山遺跡調査中に見つかった約1100年の建物跡。まだ調査研究中とのことですが、ロマンを感じずにはられません。



動画チームの作品はこちら



【平山八幡神社】

徳川家康が軍配団扇を寄進した神社。敷地内にある川北地区センターでの平山ことな広場・ひらやまマルシェは裏面をチェック！

【東宮下みんなのひろば】

地域の皆さんが運営する居場所。大人の方がつるし雛を作る傍らで、赤ちゃんが遊んでいる。大人も子どももほっこりできる空間。



【平山東公園】

井戸から冷たい水が湧き出し、水遊びが楽しめる公園。夏の外遊びにおススメ！



【91段階段】

登るのは大変だけど、ここからの景色がきれい！

【地区トピックス】

平山季重や謎の多い平山遺跡などロマンあふれる歴史と、浅川などの豊かな自然が調和するまち。街を歩けば自分だけのお気に入りスポットが見つかること間違いなし！



1 大福寺下公園



京王線平山城社公園駅南口広場付近には昔、大福寺という禅宗の寺がありました。鎌倉武士平山季重が晩年この地

で過ごし、この寺を開基したといわれています。明治6年廃寺となり大福寺の建物、日奉地藏堂など一部が宗印寺に移転されています。その寺の名に因んだ公園です。浅川沿いの桜並木は日野でも有数の華やかさです。桜は、安田善衛氏の寄贈により、浅川堤に三千本の桜が大正天皇御即位記念に南平から北野までの浅川の堤防に、吉野桜が青年団の人達の手によって植えられた。一時は桜の名所(浅川の桜)となったが、太平洋戦争の時に薪炭用に伐採されたので、今は僅かに老木が残っているだけである。その桜並木に沿って流れる用水は平山用水の支線で、親水整備されており子どもたちの水遊びやザリガニ捕りの場となっています。(みずくら)

2 ひらやまえんにち(平山わの会)



ひらやまえんにちは、平山中地区に住む地域の大人と、平山小学校の生徒メンバーが協力してつくられたお祭りです。子どもたちから出た自由なアイデアを、どうにか実現しようと大人たちが頭をひねって考えます。当日は子どもたちも出店者側に立って、一緒に準備をして、お客さんを楽しませようと頑張ります。例年夏ごろ開催しています。チラシを見かけた際は、ぜひ立ち寄ってみてください。中心になって運営しているのは、平山わの会の方々。平山わの会は、みんなで輪になって、和やかに、話をする会。一緒におまつりを創り上げる仲間を、大人も子どもも募集しているそうです。平山を盛り上げたい方、お祭りが好きな方におススメです!(おまつりおとこ)

3 ひらやまマルシェ



ひらやまマルシェは、平山八幡神社のとなり(川北地区センター前)で定期的開催されるマルシェです。朝採れたばかりの新鮮な野菜や地元の商店さんによる出張販売だけでなく、ワークショップに体験にライブにハンドメイドアクセサリーの販売などなど、いつもたくさんのお店があって毎回ワクワクして(まうー味違ったマルシェです。地元の自治会の方も全面協力しており、地域のつながりについていかなど再確認できるイベントです。家族で行っても楽しめます。一度立ち寄ってみては?(YU)

4 鮫陵源跡



昭和11年(1936)6月に平山に開園した鮫陵源は、養魚場を兼ねた割烹及び洋風遊園地が複合した施設であった。創設者は、貿易商で、京王電気軌道第三位の株主であった鮫島亀之助であった。すべての施設が完成した昭和15年には約3万坪の敷地であった。三角屋根の建物がある正門を入ると、右手に養魚場、左手に遊園地が広がっていた。養魚場の面積は約5000坪で、約60の区画に分かれ、30か所以上の井戸から給水されていたという。養殖された魚はアユ、マス、コイ、キンギョなど多種に及び、他にも1000羽以上の水禽類がいたという。養殖された魚は園内の食堂で供されたほか、新宿にあった「ニ幸」などに卸されていた。この巨大な養魚場の経営は魚類や水禽類の養殖といった亀之助の趣味が高じたものと言われている。一方の遊園地にはブランコ、シーソーのほか、ウッドボールゴルフという鮫陵源独自の遊びや「大山滑り台」という鮫陵源のシンボルとも言える巨大な滑り台などがあり、遠足の子供たちでにぎわっていたという。鮫陵源は、昭和8年に営業を中止し、戦後は経営者が代わって料亭として営業した後、昭和39年に東京都住宅供給公社の平山住宅が建設された。わずかに弁財池の一部が残る。(みずくら)

5 平山用水取水堰



浅川右岸の街を潤す平山、南平、高幡用水はこの平山用水取水堰から浅川の水を導水しています。高幡用水は程久保川に排水し、またわずかですが向島用水にも流入しています。平山用水の開削は江戸時代にさかのぼりますが、現在の取水堰や用水路は昭和30年代初期に用水組合によって整備され、およそ60年の長きにわたって浅川右岸を潤し水辺風景を維持してきました。時に台風、大雨で浅川の激流が導水堰を流出させ取水できないうときでも維持管理がなされ、市民による原風景の保持が願われてきました。残念ながら平山地区からは田んぼはなくなり、一部土地区画整理事業などにより支線の廃滅や直線化した水路に変わりましたが、南平・高幡へと送られるこの水は、今でも日野市中央公民館主催の南平田んぼの学校に注がれています。(みずくら)

6 東平山ハチドリ農園



「地域の繋がりを感じられるコミュニティガーデンを日野市に増やしたい」「私たちにできることをひとつひとつ行動(続けていくことで、農のある暮らしの豊かさを広めたい」という思いから始まった東平山ハチドリ農園。メンバーはなんと子育て中のママさんが多く、JA東京みなみやせせらぎ農園など多くの方の協力のもと昨年本格的に活動を始めたそうです。最近では平山マルシェへの参加やアロマ講座ワークショップなども開催しています。今年からはほっと一息付けて憩いの場にもなる移動式休憩スペースも手作りし、魅力的なコミュニティガーデンとしてスタートを切っています。今後の広がりに注目です!(しま)

7 平山ことなひろば



「地域に居場所を作りたい!子どもおとなも思い切り遊べる場を!」との想いで始まったプレーパークです。「ことな」は子ども「こ」と大人「とな」。子どもだけでなく大人も自分らしく自由に過ごせる居場所を目指しているそう。川北地区センターと平山八幡神社周辺の林にロープや昔遊びの道具などが設置されたり、たまにお鍋を作って食べたりもします。季節のイベントや平山マルシェとの共催などもあり、地域と関わりたい大人にもおすすめです!(日野の遊び人)

実施日:毎月主に第一日曜日(異なる場合も)
時間:午前10時から午後3時

8 平山台文化スポーツクラブ・平山台交流の会



旧平山台小学校跡地のコミュニティ施設、平山台健康・市民支援センターにて活動している団体さん。

●平山台文化スポーツクラブ
元学校という施設を活かして、様々な文化スポーツプログラムを自主運営するクラブ。その数なんと20種類以上!子どもからシニアの方まで、少額の会費でいつでも参加できます。
スポーツ系プログラム:ビーチボール、卓球、グラウンドゴルフ、バドミントン、ズンバなど
文化系プログラム:絵画教室、書道教室、コーラス、裏千家茶道教室など
興味のある方はぜひ体験教室やイベントに参加してみてください!
●平山台交流の会
平山一・二・三丁目の自治会が設立したボランティアグループ。「出来る範囲でポチポチと楽しく」を合言葉に、花壇のお手入れや地域交流・ふれあい活動をされています。じゃがいも、さつまいもなど1年中収穫できる畑では、夏と秋の芋ほり会。小さな里山もあり、メダカの飼育や子ども昆虫観察会など、地域の子も達が行っています。(ひらりん)

9 平山城址公園



昭和初期京王電気軌道(現・京王電鉄)などは高幡不動から野猿峠までのハイキングコースを開通しました。この地はゴルフ場の跡地で、ハイキングコースの、ちょうど中間点となり、休憩や昼食をとる場所でした。京王電鉄はゴルフ場跡地を購入、昭和29年(1954)に「平山城址公園」を開通。公園名に合わせ駅名も変更しました。こども用遊具、小動物の動物園、昆虫標本展示資料館など家族連れの楽しめる公園でした。東京都は、京王帝都電鉄より買収し、昭和55年(1980)6月1日、都立平山城址公園を開通しました。現在の公園面積は120千㎡。南傾斜の山で、むかしからこの地に生育の典型的な里山の雑木林です。六国台という名の見晴らし台幅約5mの石板に相模国の大山から常陸国の筑波山まで、山の姿と名と標高が線刻されています。石板には「六国台左右180度の展望昭和30年(1955)2月」と設置年月があります。山名には富士山(駿河、甲斐)、大菩薩(甲斐)、赤城山(上野)、武甲山(武蔵)、男体山(下野)、などがあり、国名では七か国です。六国台の命名は地元武蔵を除くのでしょか?設置当時は石板に描かれた山はすべて見えたのです。現在は、樹木が遮り、眼下の平山八幡神社の森など北方の一部の風景だけになりました。また平山城址公園の一角に、季重を祀った季重神社がある。季重神社のある所は「丸山」と呼ばれていた。「丸山」は、平山季重の館跡と指定される旧平山小学校の南正面に位置し、館や浅川方面に眺望のきく重要な位置にある。(みずくら)

10 ツクルイエ「たきあいあい」



日野市空き家活用マッチング制度を利用し、地域の方々の体験活動の場、大人も子どもも自分らしく過ごせる場として令和4年8月にオープン。空き家を活用した地域の交流拠点です。週に2回フリースペースとして、みんなでボードゲームをしたり、ひとりで読書をしたり、思い思いの時間を自由に過ごせます。友達の家に遊びにいくなような感覚で訪れることができるそう。地域の「みんな」の居場所を「みんな」で創るがコンセプト。畑づくりや、子ども食堂「タキッセン」、大人も子どももありのままの自分でいられる「My BASE」など、地域の様々な方が集い、場を創っています。何かをやりたい地域のみなさんと話し合いながら、様々なイベントや事業を計画中です。(TAKI)